

SurfGate User Manual (NTD83X/Gateway)

NTD83X-UserQ



株式会社 SyncWave

目次

目次	2
1. 安全上の注意	4
2. 機器構成	5
3. 製品仕様	9
4. 起動前の準備	12
5. 初期設定(WebUI ログイン)	13
6. LTE	14
7. Ethernet Management	15
1. Ethernet を LAN で使用する場合	15
2. Ethernet を WAN で使用する場合	17
8. ワイヤレス LAN	19
1. Wifi STA (ワイヤレスクライアント設定)	19
2. WLAN Basic Settings(ワイヤレスアクセスポイント設定)	20
3. Wireless MAC Filter	21
9. VPN	22
1. SSTP	22
2. IPSec	24
10. RS485/232	26
1. ModbusRTU 接続	26
2. 接続機器設定(プロファイル対象機器)	27
2-1.プロファイル対応機器設定	27
2-2.プロファイル対応機器一覧	27
2-3.プロファイル対応機器のデータ確認	27
2-4 .プロファイル対応機器の CSV 出力	27
3.接続機器設定(プロファイル非対応機器 Default)	28
11. EnOcean	30
1.EnOcean Device Manager 画面説明	30

2.Regsterd Device リストから登録	31
3.Manually Register Device から登録	32
4.Teach-in から登録	33
5.EnOcean Equipment 画面説明	34
6.センサーの登録	34
7.センサーの削除	35
8.対応 EEP 一覧	36
9.対応 GP 一覧	38
12. ModbusTCP	39
1. ModbusTCP 接続	39
2. Modus Address Map (EnOcean)	40
3. Modus Address Map (ModbusRTU)	40
13. FTP/SFTP	42
1. FTP Upload	42
2. FTP Gather	43
3. Un_upload List	44
14. MQTT	45
15. Cloud Service	49
1. AWS に接続	49
2. Azure に接続	50
16. ソフトウェアアップデート	52
17. Network Interface	53
18. 改訂履歴	54
19 ご室内	56

1. 安全上の注意

本章では、安全上の注意について記載します。

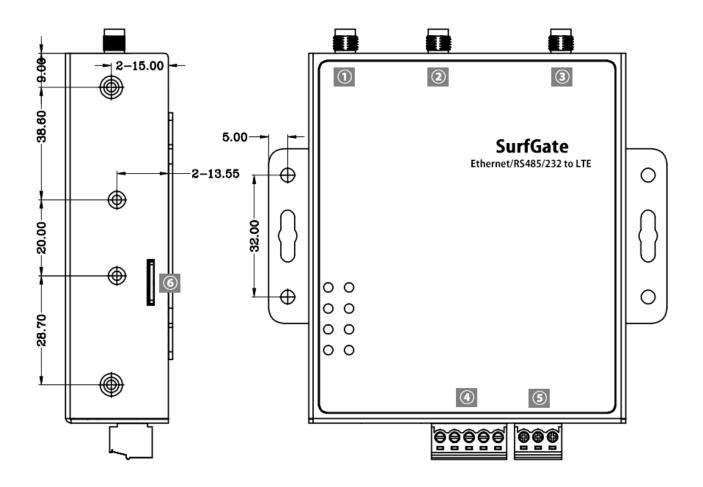
本製品を安全に使用するために、以下のことを守ってください。

- 本誌の記載内容を逸脱した方法で使用しないでください。
- 下記の環境では保管、設置、使用しないでください。
 - ・振動、衝撃の影響が大きい場所
 - ・不安定な場所
 - ・屋外や直射日光、風雨、水にさらされる場所
 - ・温湿度が仕様範囲外の場所
 - ・湿度変化が激しく、結露や氷結の恐れがある場所
 - ・電界及び磁界の影響を受ける場所
 - ・強い高周波ノイズやサージの影響を受ける場所
 - ・腐食性ガスや溶解性液体のある場所
- 放熱を妨げないよう、本製品の周辺をふさがないでください。
- 発熱する機器と近接して取り付けないでください。
- ◆ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
- 分解、改造、修理をしないでください。
- DIN レールに取り付ける場合は、ねじで緩みがないように取り付けてください。
- 使用中に異音や異臭がする、煙がでる、過剰に発熱するなどの異常が起きた際は直ちに使用を中止してください。
- SIM カードやSD カードの取り付けや取り外しを行う場合は必要以上の力を加えないでください。
- 本製品を廃棄する際は地方自治体の条例に従い正しい方法で廃棄してください。

2. 機器構成

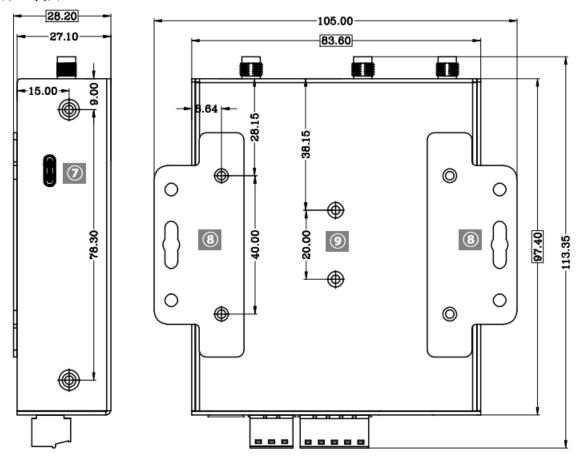
本章では、各部の名称と役割を記載します。

< 右側部 / 正面 >



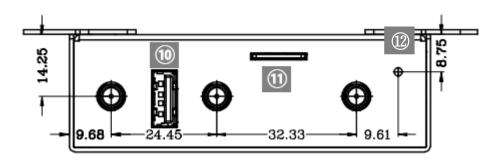
名称	役割
① LTE アンテナポート	LTE アンテナ用の接続端子
② WIFI アンテナポート	無線 LAN アンテナ用の接続端子
③ 共用アンテナポート	LTE (サブ) や EnOcean アンテナ等の接続端子
④ RS232 / RS485 ポート	RS232 および RS485 用の接続端子
⑤ DC 電源ポート	DC 電源ケーブル用の接続端子
⑥ SD スロット	Micro SD を挿入するスロット

< 左側部 / 裏面 >



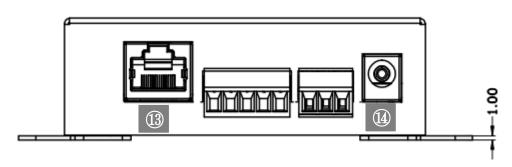
名称	内容
⑦ USB-C ポート	USB-Type-C を接続する端子
⑧ 取付用金具	壁等に取り付けるための金具(取り外し可能)
⑨ DIN レール用金具	DIN レールに取り付けるための金具(取り外し可能)

< 上部 >



名称	内容
⑩ USB-A ポート	USB 機器を接続する端子(Debug 用)
① SIM スロット	Micro SIM(3FF)を挿入するスロット
② Reset ボタン	工場初期出荷状態に戻すボタン(10 秒押す)

< 下部 >



名称	内容
① Ethernet ポート	100BASE-TX Ethernet ケーブルを接続する端子
④ DC 電源ポート	付属の AC アダプタを接続する端子(12V 標準)

< 付属アンテナ >



名称	内容
⑤ 汎用アンテナ	LTE、WIFI 用アンテナ
16 Sub-GHz アンテナ	EnOcean 受信等の Sub-GHz 帯(920MHz)アンテナ

3. 製品仕様

本章では、製品仕様について記載します。

Basic Hardware

項目	内容
CPU	DualCore; ARM Cortex-A7 up to 1.2GHz; ARM Cortex-R5
RAM	128MB DDR2
Flash	256MB Nandflash

Cellular Interface

項目	内容
4G	LTE Category 4
Number of antennas	2
Connector	SMA
SIM	Micro SIM ×1
LTE Frequencies	1,3,8,18,19,41

Serial Interface

項目	内容
Type	RS485×1 or RS232 ×1
Connector	5-pin Data+ (A), Data- (B), TXD, RXD, GND; 3.5mm terminal block
	3-pin VCC GND PE
ESD protection	Class 4
Baud rate	2400 bps to 115200 bps

Ethernet Interface

項目	内容
Number of ports	10/100/1000 Mbps ×1, LAN or WAN
Magnet isolation	1.5KV
protection	

Wireless Interface

項目	内容
Number of antennas	1
Connector	SMA
Standards	802.11 b/g/n, 1 x 1 MIMO, supports AP and Client modes
Frequency bands	2.412 – 2.484 GHz

EnOcean Interface (Optional)

項目	内容
Number of antennas	1
Standards	928 MHz (Japan)
Connector	SMA
Sensitivity	-95 dBm
Modulation	FSK
Data rate	125Kbps
MAX Registrable	100
Sensors	
MAX Monitorable	24
Sensors	

Others

項目	内容		
SD	Micro SD (Max 128GB)		
Reset button			
USB	$VSB~2.0~(host) \times 1$, Type A, $5V~500 mA$		
LED indicators	left: power, Ethernet, WIFI, Link-K (socket connected)		
	right: signal strength		
Watchdog	built-in hardware watchdog		

Software

項目	内容					
OS	Linux OpenWRT					
Network Protocols	PPP, PPPoE, TCP, UDP, MQTT(s), DHCP, ICMP, NAT, HTTP(s), DNS,					
	NTP, SMTP, ARP, NTP, SMTP, Telnet, DDNS, etc.					
Industrial Protocols	Modbus RTU, Modbus TCP, BACnet IP%					
VPN	OpenVPN, SSTP, IPsec					
Firewall	DMZ,anti-DoS, Filtering (IP/Domain name/MAC address), Port					
	Mapping, Access Control					
Remote management	SurfView remote management system, WebUI, SSH					

Cloud Connection

項目	内容
Туре	AWS, Azure, Cumulocity

Power Supply and Consumption

項目	内容
Connector	DC-Jack; 3-pin terminator

Input voltage	9 ~ 36V DC
Power consumption	Idle: 1W
	Data link: 5W (peak)

Physical Characteristics

項目	内容
Dimensions	97×83×27mm
Weight	298g
Housing	Metal
Ingress protection	IP30
Installations	Desktop, wall mounting and 35mm DIN rail mounting
Operating temperature	-20 ~ +70 °C
Storage temperature	-20 ~ +80 °C

%under development.

Certification

項目	内容
Japan	Telec/Jate

Regulatory

項目	内容
EMI	EN55032 CE, Class B
EMS	IEC61000-4-2 ESD, Level 4
	IEC61000-4-4 EFT, Class B
	IEC61000-4-5 SURGE, Level 4
	IEC61000-4-6 CS, Class A
	IEC61000-4-11 DIP, Class C298g
Vibration	IEC60068-2-6
Shock	IEC60068-2-27

4. 起動前の準備

本章では、起動前の準備について記載します。

● アンテナの接続

無線機能を使う場合、使用する機能に応じて各ポートにアンテナを取り付ける。 ※アンテナ感度に影響するため、回らなくなるまでしっかり取り付けてください。

● SIM カードの挿入

SIM カードを本製品ラベルに記載された向きで挿入する。

*SIM の挿入方向に注意してください。無理に挿入すると取り出せなくなる場合があります。

*電源 ON 後に SIM を挿入しても認識しません、必ず電源 OFF 時に挿入してください。

SD カードの挿入

SDカードを本製品ラベルに記載された向きで挿入する。

*SD の挿入方向に注意してください。無理に挿入すると取り出せなくなる場合があります。

*電源 ON 後に SD を挿入しても認識しません、必ず電源 OFF 時に挿入してください。

*SDカードを使用しない場合は挿入不要です。

● AC アダプタの接続

本製品の電源端子に付属のACアダプタを取り付け、コンセントに挿す。

*コンセントに挿すと電源 ON となります。

*コンセントを抜くと電源 OFF となりますので、終了時はコンセントを抜いてください。

*停電対策として電源 OFF 後もしばらく起動しています。

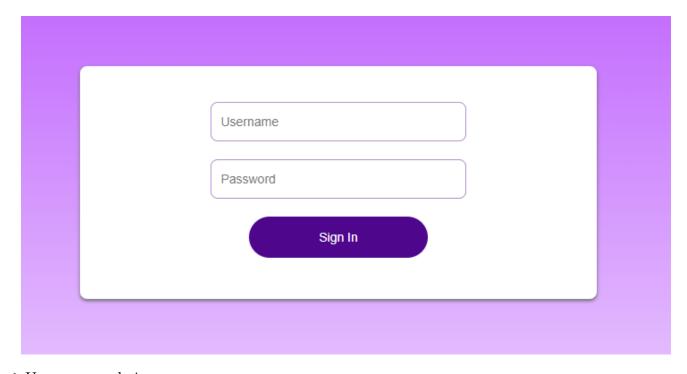
5. 初期設定(WebUI ログイン)

本章では、WebUI へのログイン手順について記載します。

- 1. 本製品の SIM を挿入する。
 - *SIM の挿入方向に注意してください。
 - *電源 ON 後に SIM を挿入しても認識しません、必ず電源 OFF 時に挿入してください。
- 2. 本製品付属のACアダプタをコンセントに挿す。
- 3. パソコンを起動する。
- 4. 本製品の USB-C ポートとパソコンの USB ポートを USB ケーブルで接続する。
- 5. パソコン上で Web ブラウザを起動する。
- 6. アドレスバーに以下 URL を入力する。

192.168.1.1

7. ログイン画面が表示されるので以下のログイン情報を入力する。



>Username : admin >Password : admin

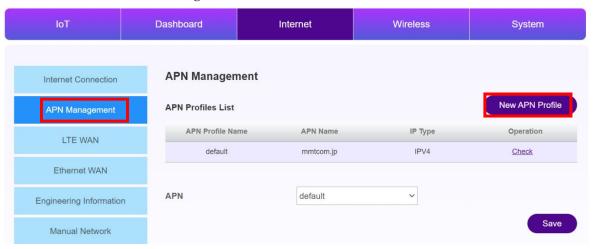
*本製品起動直後は表示に時間がかかる場合がありますので、繋がらない場合はしばらく置いてから再度接続してください。

8. ログインが完了しダッシュボードが表示される。

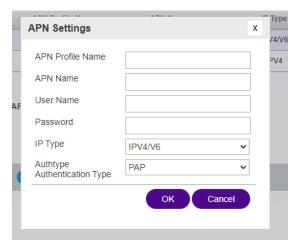
6. LTE

本章では、LTE 接続手順について記載します。

- 1.メインメニューより[Internet]を選択する。
- 2.サイドメニューより[APN Management]を選択する



3.[New APN Profile]を押下し、挿入されている SIM の APN 情報を設定する。



- 4.[OK]を選択する。
- 5.APN のドロップダウンメニューより作成した APN Profile を選択する。

Engineering Information	ADM			
Manual Network	APN	test	Y	
PIN Management				Save

6.[Save]を押下する。

7. Ethernet Management

本章では、Ethernet Management 手順について記載します。

1. Ethernet を LAN で使用する場合

- 1.メインメニューより[Internet]を選択する。
- 2.サイドメニューより[Ethernet Management]を選択する。
- 3. Ethernet Management 画面より[Edit]を押下する。



4.Ethernet Management 画面より以下を入力する。

Ethernet Management Ethernet Port LAN/WAN Mode **Ethernet Mode IP Adress** Subnet Mask Operation LAN DHCP_SERVER 192.168.1.1 255.255.255.0 <u>Edit</u> **Ethernet Port LAN/WAN Mode** LAN ○ WAN **Ethernet Mode** O DHCP SERVER Static If needed, click here to configure DHCP settings Gateway IP 192.168.1.1 **Subnet Mask** 255.255.255.0 **OK**

-LAN/WAN Mode: LAN の場合

-Ethernet Mode: DHCP_SERVER の場合

接続された対向機器は DHCP により IP アドレスが自動的に割り当てられる。

-Gateway IP: DHCP Setting の Default Gateway IP (変更不可)

-Subnet Mask: DHCP Setting の Subnet Mask(変更不可)

-Ethernet Mode: Static の場合

任意の IP アドレスと Subnet Mask を Ethernet port に割り当てることができる。 DHCP Setting で割り当てているセグメントと同一の設定を割り当てることはできません。

-LAN IP: 任意の IP アドレス

- Subnet Mask: 任意の Subnet Mask

5.[OK]ボタンを押下する。

*インターフェイスの詳細は <u>Network Interface</u> 章を参照

2. Ethernet を WAN で使用する場合

- 1.メインメニューより[Internet]を選択する。
- 2.サイドメニューより[Ethernet Management]を選択する。
- 3. Ethernet Management 画面より[Edit]を押下する。

loT	Das	shboard	Internet		Wireless		System	
Internet Connection	E	thernet Man	agement					
APN Management		Ethernet Port	LAN/WAN Mode	Ethernet Mod		Subnet Mask 255,255,255.0	Operation <u>Edit</u>	
LTE WAN		<u>'</u>	LAN	Brior_GERVE	102.100.1.1	200.200.200.0	<u>LVII</u>	
Ethernet Management								
DHCP Settings								

4.Ethernet Management 画面より以下を入力する。

thernet Management				
Ethernet Port LAN/WAN Me	ode Ethernet Mode	IP Adress	Subnet Mask	Operation
1 LAN	DHCP_SERVER	192.168.1.1	255.255.255.0	Edit
Ethernet Port	1			
LAN/WAN Mode	○ LAN ● WAN			
Ethernet Mode	• DHCP_CLIENT	○ Static		
IP Address				
Subnet Mask				
				OK

-LAN/WAN Mode: WAN の場合

-Ethernet Mode : $DHCP_CLIENT$

対向機器から DHCPで IPアドレスを自動的に割り振られます。

-IP Address:自動割り当て/変更不可 -Subnet Mask:自動割り当て/変更不可

-Ethernet Mode : Static

任意の IP アドレスと Subnet Mask を Ethernet port に割り当てる。

-WAN IP : 任意の IP アドレス

-Subnet Mask: 任意の Subnet Mask

-Gateway IP:接続先ネットワークのゲートウェイ IP アドレス -DNS1(optional):任意の DNS サーバーアドレス(プライマリ)

-DNS2(optional): 任意の DNS サーバーアドレス(セカンダリ)

5.[OK]ボタンを押下する。

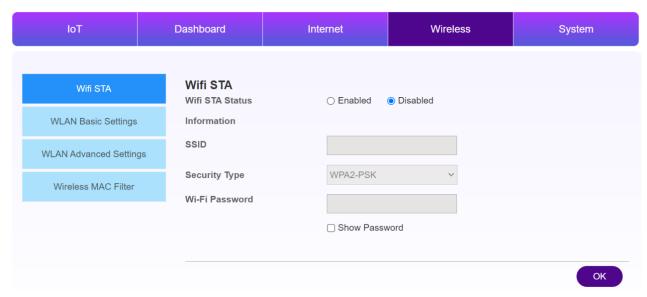
*インターフェイスの詳細は <u>Network Interface</u> 章を参照

8. ワイヤレス LAN

本章では、ワイヤレス LAN 設定の手順を記載します。

1. Wifi STA (ワイヤレスクライアント設定)

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより [Wireless]を選択する。
- 2. サイドメニューより[Wifi STA]を選択する。
- 3. Wifi STA 画面より以下を入力する。



-Wifi STA Status: Enabled(有効にする場合) / Disabled(無効にする場合)

-SSID:接続先のSSID

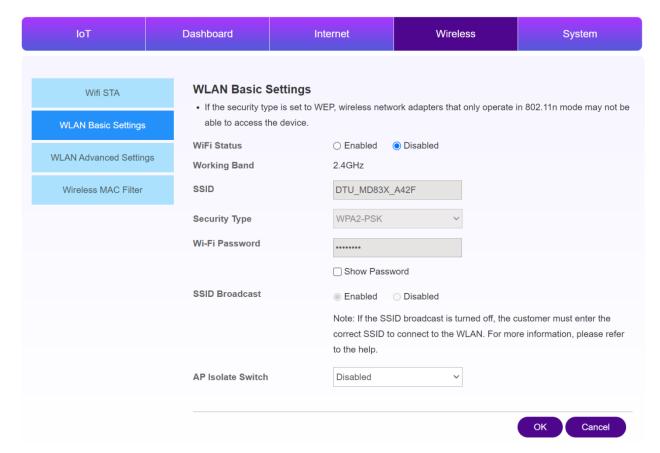
-Security Type: 接続先の Security Type

-Wi-Fi Password: 接続先の Wi-Fi Password

4. [OK]を選択する。

2. WLAN Basic Settings(ワイヤレスアクセスポイント設定)

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[Wireless]を選択する。
- 2. サイドメニューより [WLAN Basic Settings]を選択する。
- 3. WLAN Basic Settings 画面より以下を入力する。



-Wi-Fi Status: Enabled(有効にする場合) / Disabled(無効にする場合)

-SSID: 任意の名称

-Security Type: 任意の Security Type

-Wi-Fi Password: 任意の Wi-Fi Password

-SSID Broadcast: Enabled(SSID を公開する場合)/Disabled(SSID を公開しない場合)

-AP Isolate Switch: Disabled(無線クライアント同士の通信をブロックしない) / Enabled(無線クライアント同士の通信をブロックする)

4.[OK]を選択する。

3. Wireless MAC Filter

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより [Wireless]を選択する。
- 2. サイドメニューより[Wireless MAC Filter]を選択する。
- 3. MAC Filtering Mode より以下のモードを選択し[Save]を選択する。
 - -Disable:無効にする場合
 - -Allow:許可する機器のマックアドレスを指定
 - -Deny: 許可しない機器のマックアドレスを指定
- 4.[Add]ボタンを選択する。
- 5. Add MAC Filter Address 画面で該当機器のマックアドレスを入力し[Save]を選択する。

Add MAC Filter Address	X
Save	

9. VPN

本章では、VPN 設定の手順を記載します。

1. SSTP

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[System]を選択する。
- 2. Protocol プルダウンメニューより SSTP を選択する。



- 3. Protocol プルダウンメニューより SSTP を選択する。
- 4. 以下を設定する。



-Server:接続先 VPN サーバーアドレス

-Root Cert:接続先 VPN の証明書を設定し[Load]を押下

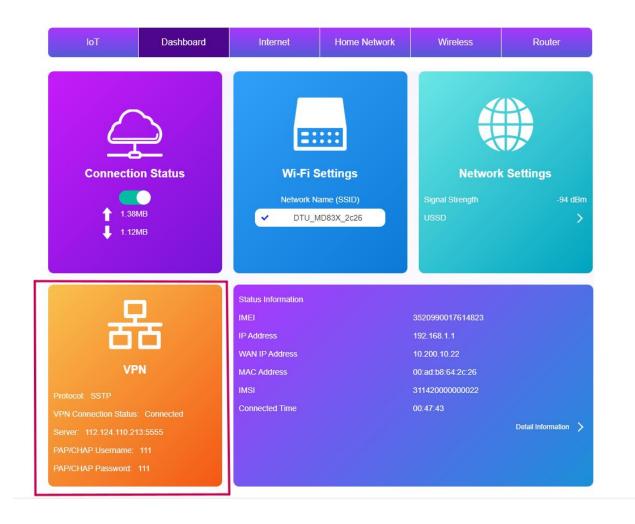
-Type:

· Password;パスワード方式

· Certificates(TLS): 証明書方式

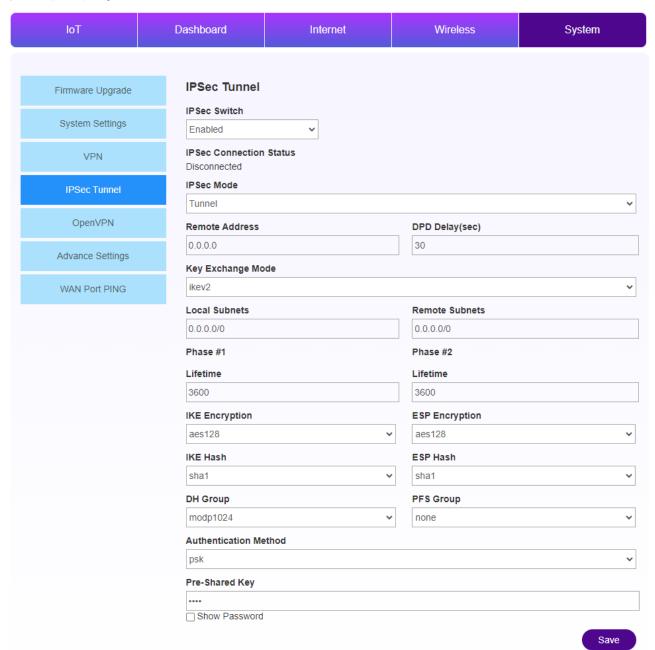
-PAP/CHAP Username: (パスワード方式)ユーザネームを入力

- -PAP/CHAP Password: (パスワード方式) パスワードを入力
- -User certificate: (証明書方式)Certificate を設定し[Load]を押下
- -User private key: (証明書方式)Private Key を選択し[Load]を押下
- 5. [Save]ボタンを押下する
- 6. VPN Connection Status が Connected になったら接続完了
- 7. WebUI のメニュー[Dashboard]を選択する。
- 8. VPN の部分に VPN 情報が表示されます。



2. IPSec

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[System]を選択する。
- 2. IPSec Tunnel メニューを選択する。
- 3. 以下を設定する。



-IPSec Switch: Enabled / Disabled 接続先 VPN サーバーアドレス

-IPSec Connection Status: IPSec サーバとの接続状態を表示

-IPSec Mode: Tunnel / Transport から選択

-Remote Address: IPSec サーバのアドレスを入力

-DPD Delay (sec): DPD(Dead Peer Detection)、IPsec トンネルの通信断をリアルタイムに

検出する期間を設定 (Heartbeat と同じ効果)

-Key Exchange Mode: ikev1/ikev2 から選択

- -Local Subnets: IPsec で保護されたローカルサブネットのアドレスを入力
- -Remote Subnets: IPsec で保護されたリモートサブネットのアドレスを入力

Phase #1 (Security Association Phase1)

- -Lifetime: Phase1の生存可能時間を入力
- -IKE Encryption:暗号化アルゴリズムを aes128 / aes192 / aes256 / 3des から選択
- -IKE Hash: 認証アルゴリズムを sha1/sha256/sha384/sha512/md5 から選択
- -DH Group: DH Group を選択

Phase #2 (Security Association Phase2)

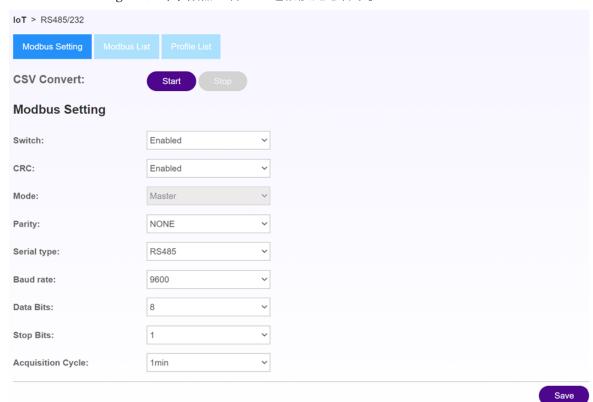
- -Lifetime: Phase2の生存可能時間を入力
- -ESP Encryption:暗号化アルゴリズムを aes128/aes192/aes256/3des から選択
- -ESP Hash: 認証アルゴリズムを sha1/sha256/sha384/sha512/md5 から選択
- -PFS Group: PFS Group を選択
- -Authentication Method:認証方式、psk (Pre-shared Key) で固定
- -Pre-Shared Key: psk パスワードを入力
- 4.[Save]ボタンを押下する
- 5. IPSec Connection Status が Connected になったら接続完了

10. RS485/232

本章では、RS485/232 関連の手順を記載します。

1. ModbusRTU 接続

- 1.対象機器を RS485 および RS232 で本製品と接続する。
- 2.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 3.メニューより[RS485/232]を選択する。
- 4.Modbus Setting より対象機器に合わせ通信設定を行う。



-CSV Convert: Stop/ Start を選択する (手順では Stop のままにしてください)

-Switch: Enabled/Disabled を選択する(RTU を利用する場合は Enabled 選択)

-CRC: Enabled/Disabled を選択する (CRC を利用する場合は Enabled 選択)

-Mode: Master 固定(変更不可/Slave に関しては今後対応予定)

-Parity:対象機器の設定に合わせ選択

-Serial Type: RS485/RS232 を選択

-Baud rate:対象機器の設定に合わせ選択

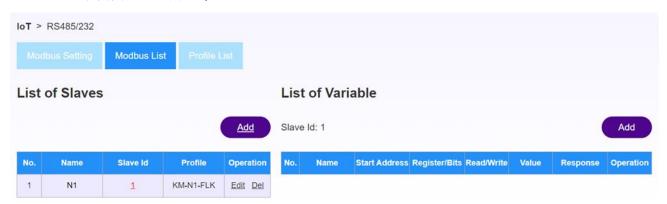
-Stop Bits:対象機器の設定に合わせ選択

-Acquisition Cycle:データの取得間隔を選択

5.[Seve]を押下する。

2. 接続機器設定(プロファイル対象機器)

- 2-1.プロファイル対応機器設定
- 1.メニューより [Modbus List]を選択する。
- 2.[Add]を押下する。
- 3.対象機器を登録する。



・Name: 名称を入力する

・Salve Id:対象機器のスレーブ ID を入力する

Profile:対象機器のプロファイルを指定する(ない場合は Default)

4.[OK]を押下する

2-2.プロファイル対応機器一覧

現在プロファイルは以下に対応しています。

上記よりプロファイルを設定いただくことで、詳細の設定が不要になります。

ブランド	名称	型番
OMRON	小型電力量モニタ	形 KM-N1-FLK

2-3. プロファイル対応機器のデータ確認

プロファイル対応機器については WebUI 上で値の確認が可能です。

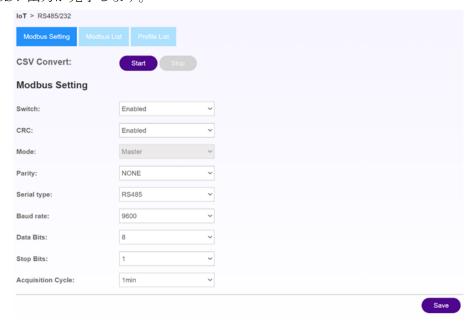
- 1. メニューより[Profile List]を選択する
- 2. Select Profile より対象機器を選択
- 3. 取得したデータの確認が可能

2-4. プロファイル対応機器の CSV 出力

プロファイル対象機器については、取得したデータの CSV 出力が可能です。

- 1. プロファイル対象機器の設定が完了後
- 2. メニューより [Modbus Setting]を選択する
- 3. CSV Convert より Start を選択する
- 4. [OK]を押下

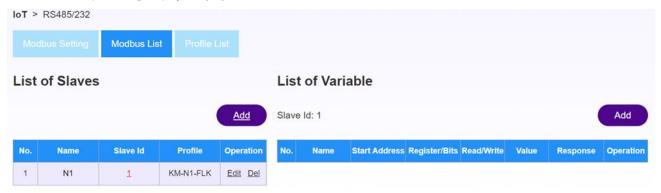
5. CSV 出力が完了します。



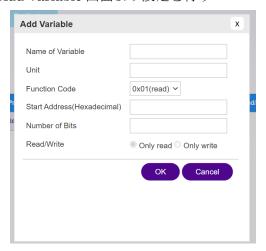
3.接続機器設定(プロファイル非対応機器 Default)

プロファイルがない機器については手動設定を行います。

1.Slave Id のリンクをクリックする



- 2.右側 List of Variable 画面より[Add]ボタンを押下する
- 3.Add Variable 画面より設定を行う



• Name of Variable: 名称を入力する

・Unit:単位を入力

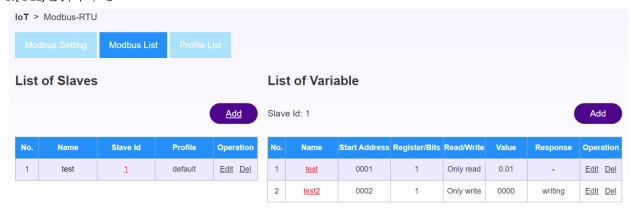
・Function Code:ファンクションコードを選択

・Start Address(Hexadecimal): 開始アドレスを入力

・Number of Bits:ビット数

・Read/Write:読み込み、書き込みを選択

4.[OK]を押下する



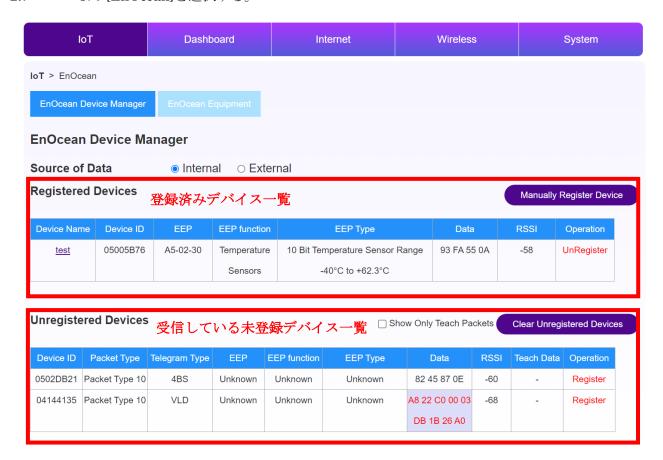
Value 欄に取得したデータが表示される。

11. EnOcean

本章では、EnOcean 関連の手順を記載します。

1.EnOcean Device Manager 画面説明

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[EnOcean]を選択する。



3.Source of Data を選択

-Internal: 本製品内蔵の EnOcean にてセンサーを受信する場合(通常使用)

-External: USB400J 等の受信機を USB に外付けして受信する場合

4.画面表示確認

Registered Devices:登録済みセンサーが表示される

Unregistered Device: 本製品が受信している未登録のセンサーが表示される

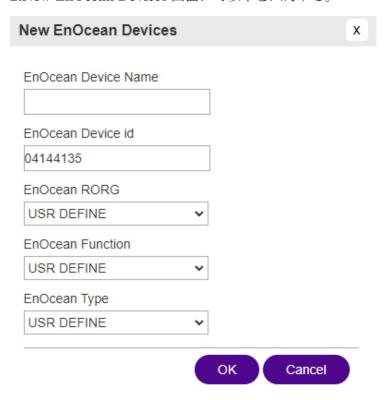
2.Regsterd Device リストから登録

*受信しているセンサーリストからの登録

1. Unregistered Devices リストより本製品に登録したいセンサーの[Register]を押下する。



2.New EnOcean Devices 画面にて以下を入力する。

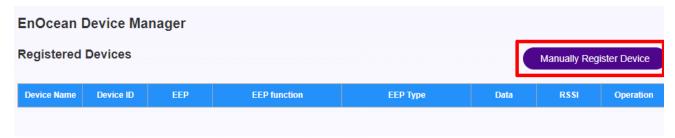


- ・EnOcean Device Name:任意の名前を入力(16 文字以内/英数字)
- ・EnOcean Device id: 該当のセンサーID(変更不要)
- ・EnOcean RORG: 該当センサーの EEP-RORG を選択
- ・EnOcean Function:該当センサーの EEP-Function を選択
- ・EnOcean Type:該当センサーの EEP-Type を選択
- 3.[OK]ボタンを押下する。
- 4. Registered Devices リストに登録される。

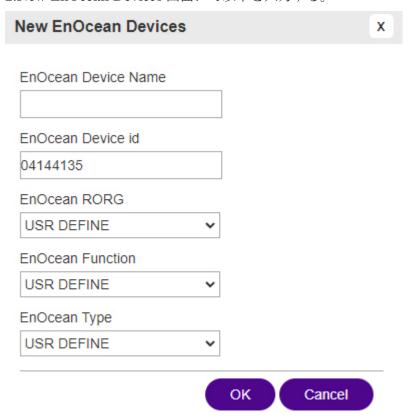
3.Manually Register Device から登録

*受信していないセンサーを登録

1.[Manually Register Device]ボタンを押下する。



2.New EnOcean Devices 画面にて以下を入力する。



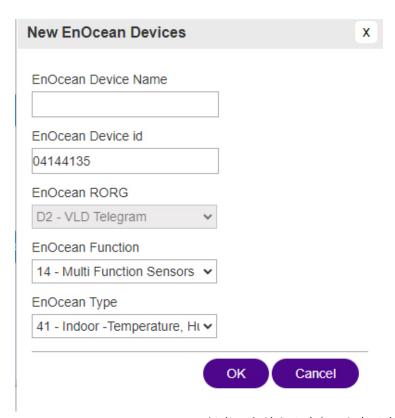
- ・EnOcean Device Name:任意の名前を入力(16 文字以内/英数字)
- ・EnOcean Device id: 該当のセンサーID を入力
- ・EnOcean RORG: 該当センサーの EEP-RORG を選択
- ・EnOcean Function: 該当センサーの EEP-Function を選択
- ・EnOcean Type:該当センサーの EEP-Type を選択
- 3.[OK]ボタンを押下する。
- 4. Registered Devices リストに登録される

4.Teach-in から登録

- *Teach-in 情報を取得して登録
- 1.該当センサーの LEARN ボタンを押下する。
- 2.Teach Data を受信したら[Register]を押下する。

Inregistered Devices				☐ Show Only Teach Packets Clear Unregistered De					d Devices
Device ID	Packet Type	Telegram Type	EEP	EEP function	EEP Type	Data	RSSI	Teach Data	Operation
04144135	Packet Type 10	VLD	D2-14-41	Multi Function Sensors	Indoor -Temperature, Humidity XYZ Acceleration, Illumination Sensor	9B D3 C0 00 2B EA FA D7 40 B0	-61	40 FF 0B 00 41 14 D2 C4	Register

4.New EnOcean Devices 画面にて以下を入力する。

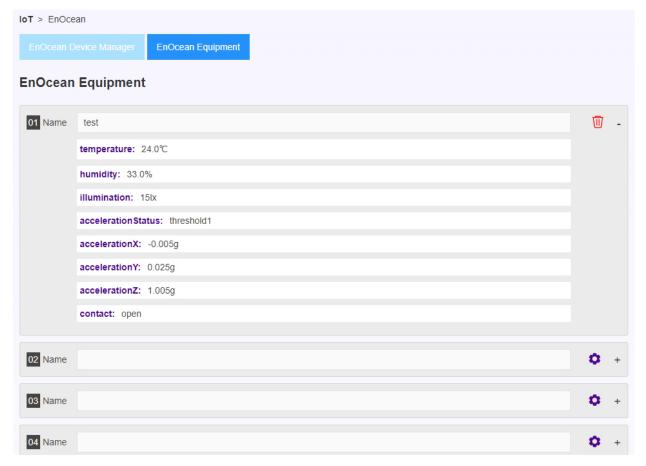


- ・EnOcean Device Name:任意の名前を入力(16 文字以内/英数字)
- ・EnOcean Device id: 該当のセンサーID(変更不要)
- ・EnOcean RORG: 該当センサーの EEP-RORG(変更不要)
- ・EnOcean Function: 該当センサーの EEP-Function(変更不要)
- ・EnOcean Type:該当センサーの EEP-Type(変更不要)
- 5.[OK]ボタンを押下する。
- 6. Registered Devices リストに登録される

5.EnOcean Equipment 画面説明

ここに登録したセンサーが Cloud や ModbusTCP で送信されるデータになります。

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[EnOcean]を選択する。
- 3.メニューより[EnOcean Equipment]を押下する。



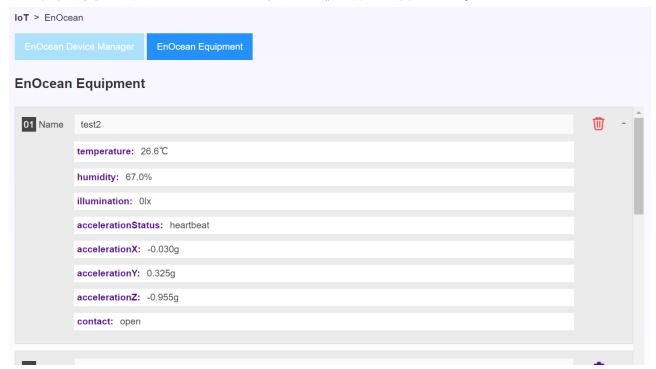
6.センサーの登録

- 1.01番の右側[歯車アイコン]を押下する。
- 2. Input Device から登録したいセンサーを選択する。

EnOcean Equipm	ent Configuration	X
Input Device	test	~
	ок с	ancel

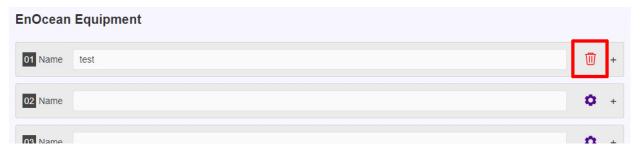
3. [OK]を押下する。

4.01 番右側[+]を押下するとセンサーから受信した値の詳細が確認できる。



7.センサーの削除

1. EnOcean Equipment に登録したセンサー右側の[ゴミ箱アイコン]を押下する。



2.Registerd Devices に登録したセンサー右側の[UnRegister]を押下する。



3.登録したセンサーが削除される。

8.対応 EEP 一覧

*解析対応 EEP 一覧

ROR G	ROR G	FUN C	FUNC NAME	TYP E	TYPE NAME	EEP 番号
F6	RPS	02	Rocker Switch, 2 Rocker	04	Light and blind control ERP2	F60204
D5	1BS	00	Contacts and Switches	01	Single Input Contact	D50001
A5	4BS	02	Temperature Sensors	05	Temperature Sensor Range 0° C to +40° C	A50205
A5	4BS	02	Temperature Sensors	14	Temperature Sensor Range -20° C to +60° C	A50214
A 5	4BS	02	Temperature Sensors	17	Temperature Sensor Range +10° C to +90° C	A50217
A 5	4BS	02	Temperature Sensors	30	10 Bit Temperature Sensor Range -40° C to +62.3° C	A50230
A5	4BS	04	Temperature and Humidity Sensor	01	Range 0° C to +40° C and 0% to 100%	A50401
A5	4BS	04	Temperature and Humidity Sensor	02	Range -20° C to +60° C and 0% to 100%	A50402
A5	4BS	04	Temperature and Humidity Sensor	03	Range -20° C to +60° C 10bit-measurement and 0% to 100%	A50403
A5	4BS	06	Light Sensor	01	Range 300lx to 60.000lx	A50601
A 5	4BS	06	Light Sensor	02	Range 0lx to 1.020lx	A50602
A5	4BS	06	Light Sensor	03	10-bit measurement (1-Lux resolution) with range 0lx to 1000lx	A50603
A5	4BS	07	Occupancy Sensor	01	Occupancy with Supply voltage monitor	A50701
A5	4BS	07	Occupancy Sensor	02	Occupancy with Supply voltage monitor	A50702
A5	4BS	07	Occupancy Sensor	03	Occupancy with Supply voltage monitor and 10-bit illumination measurement	A50703
A5	4BS	08	Light, Temperature and Occupancy Sensor	01	Range 0lx to 510lx, 0° C to +51° C and Occupancy Button	A50801
A5	4BS	08	Light, Temperature and Occupancy Sensor	02	Range 0lx to 1020lx, 0° C to +51° C and Occupancy Button	A50802

A5	4BS	08	Light, Temperature and Occupancy Sensor	03	Range 0lx to 1530lx, -30° C to +50° C and Occupancy Button	A50803
A5	4BS	09	Gas Sensor	04	CO2 Sensor	A50904
A5	4BS	10	Room Operating Panel	01	Temperature Sensor, Set Point, Fan Speed and Occupancy Control	A51001
A5	4BS	10	Room Operating Panel	03	Temperature Sensor, Set Point Control	A51003
A5	4BS	10	Room Operating Panel	04	Temperature Sensor, Set Point and Fan Speed Control	A51004
A5	4BS	10	Room Operating Panel	05	Temperature Sensor, Set Point and Occupancy Control	A51005
A5	4BS	10	Room Operating Panel	07	Temperature Sensor, Fan Speed Control	A51007
A5	4BS	10	Room Operating Panel	08	Temperature Sensor, Fan Speed and Occupancy Control	A51008
A5	4BS	10	Room Operating Panel	0C	Temperature Sensor and Occupancy Control	A5100C
A5	4BS	10	Room Operating Panel	10	Temperature and Humidity Sensor, Set Point and Occupancy Control	A51010
A5	4BS	10	Room Operating Panel	12	Temperature and Humidity Sensor and Set Point	A51012
A5	4BS	10	Room Operating Panel	13	Temperature and Humidity Sensor, Occupancy Control	A51013
A5	4BS	10	Room Operating Panel	19	Humidity, Temperature Set Point, Temperature Sensor, Fan Speed and Occupancy Control	A51019
A5	4BS	14	Multi-Func Sensor	05	Vibration/Tilt, Supply voltage monitor	A51405
A5	4BS	30	Digital Input	02	Single Input Contact	A53002
A5	4BS	30	Digital Input	05	Single Input Contact, Retransmission, Battery Monitor	A53005
D2	VLD	14	Multi Function Sensors	40	Indoor -Temperature, Humidity XYZ Acceleration, Illumination Sensor	D21440
D2	VLD	14	Multi Function Sensors	41	Indoor -Temperature, Humidity XYZ Acceleration, Illumination Sensor	D21441

9.対応 GP 一覧

解析対応 GP 一覧

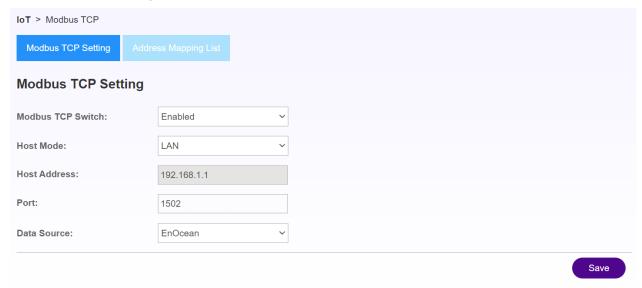
メーカー	センサータイプ	GP 番号
ワッティー株式会社	2 ワイヤレス温度センサ	HYHQ
	4ワイヤレス温度センサ	HYHQ-FF
	電子式湿球黒球温度ワイヤレスセンサ	WBGT_7500_E
株式会社ダイセン電子工業	温度センサー	HYHQ

12. ModbusTCP

本章では、ModbusTCP 関連の手順を記載します。

1. ModbusTCP 接続

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより [ModbusTCP]を選択する。
- 3.[Modbus TCP Setting]より以下を入力する。



- -Modbus TCP Switch: Enabled(有効にする場合)/Disable(無効にする場合)
- -Host Mode:

LAN(LAN 経由で ModbusTCP 利用の場合)

LTE(LTE 経由で ModbusTCP 利用の場合)

Wi-fi STA(Wi-fi STA 経由で ModbusTCP 利用の場合)

-Host Address: 本製品の IP アドレスを入力(変更不要)

-Port: 1502 を入力(変更不要)

-Data Source:

EnOcean: EnOcean のデータを送る場合

ModbusRTU: ModbusRTUで取得したデータを TCP 経由で送る場合

4.[Save]を選択する。

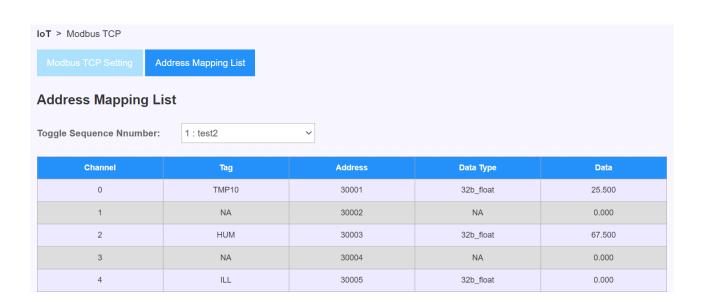
2. Modus Address Map (EnOcean)

*データソースで EnOcean を選択している場合

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[Modbus TCP]を選択する。
- 3.[Address Mapping List]を選択する。

Data Source	Address	Data	Equipment No	Channel	R/W
EnOcean 30001~30959		32bit float	1~24	1~20	R

- 4.WebUI 上のアドレスマップを確認し、Modbus ツールやサーバから本製品指定アドレス対してリクエストを行う
 - 例) TCP Address 30003 番をリクエストすると Humidity データを取得できる



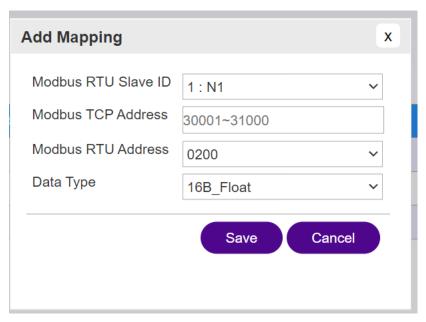
3. Modus Address Map (ModbusRTU)

*データソースで ModbusRTU を選択している場合

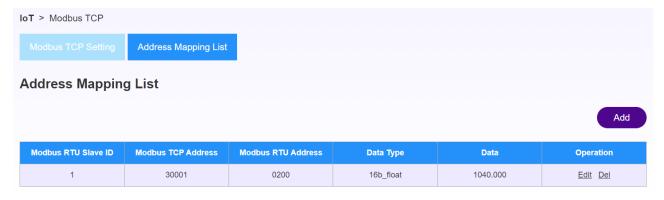
- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[Modbus TCP]を選択する。
- 3.[Address Mapping List]を選択する。

Data Source	Address	Data	R/W
ModbusRTU	30001~31000	16bit float	R

4.[Add]ボタンを押下する。



- *ModbusRTU の機器は事前に設定をしておくこと
- 4.以下を選択する
 - -Modbus RTU Slave ID: Modbus RTU にて設定した機器を選択
 - -Modbus TCP Address: ModbusTCP のアドレス 30001~31000 から選択
 - -Modbus RTU Address: Modbus RTU に接続した機器のアドレスマップを選択
 - -Data Type:データタイプを選択
- 5.[Save]ボタンを押下する
- 6. WebUI 上のアドレスマップを確認し、Modbus ツールやサーバから本製品指定アドレス対してリクエストを行う
 - 例) TCP Address 30001 番をリクエストすると RTU Address 0200 番のデータを取得できる



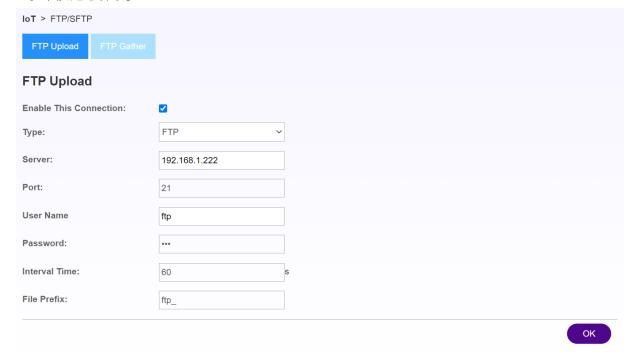
13. FTP/SFTP

本章では、FTP/SFTP 関連の手順を記載します。

1. FTP Upload

*RS485/232 経由で取得出力した CSV を上位にファイルをアップロードする機能。RS485/232 章を参照 *対応機器: OMRON の KM-N1-FLK 対応

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[FTP/SFTP]を選択する。
- 3.[FTP Upload]を選択する。
- 4.以下設定を行う。



Enable This Connection:使用する場合はチェックを入れる

・Type:FTP/SFTPを選択

: Server: アップロード先の IP アドレスを入力

・Port: Type の選択で固定値(変更不要)

・User Name:アップロード先のユーザ名を入力

・Password:アップロード先のパスワードを入力

・Interval Time:アップロード間隔を設定

・File Prefix: 出力フォルダの名称(頭文字)

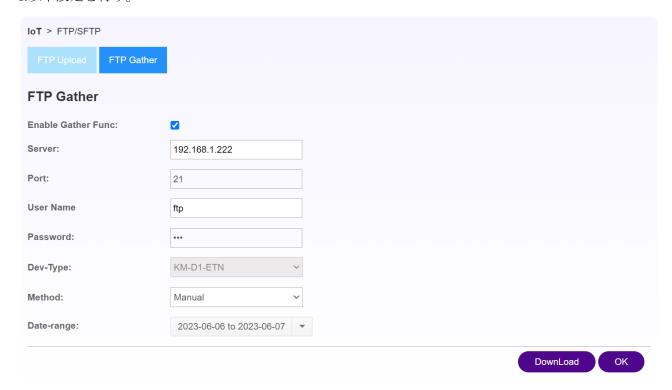
5.[OK]を押下する

2. FTP Gather

*下位機器からファイルを取得する機能。

*対応機器: OMRON の KM-D1-ETN 対応

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[FTP/SFTP]を選択する。
- 3.[FTP Gather]を選択する。
- 4.以下設定を行う。



・Enable This Connection:使用する場合はチェックを入れる

·Server:下位機器のIPアドレスを入力

· Port:ポートを指定

·User Name:下位機器のユーザ名

· Password: 下位機器のパスワード名

・Dev-Type: KM-D1-ETN(変更不可/他機器も対応予定)

· Method : Manual/Auto

・Data-range: 取得したい CSV の対象期間

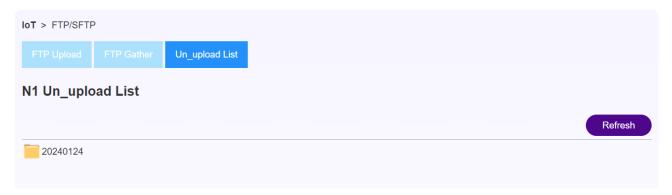
5.[Download]を押下する

6.本製品内に対象期間の CSV が保存される

3. Un_upload List

*本製品内に保存されている CSV ファイルリストを確認する機能。

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2.メニューより[FTP/SFTP]を選択する。
- 3.[Un_upload List]を選択する。



4.日付のフォルダを選択する。

IOT > FTP/SFTP				
FTP Upload	FTP Gather	Un_upload List		
N1 Un_upload List				
Sack / 202401	24			
6144_2024_0	1_24_14_11_00.	CSV		
6144_2024_0	1_24_14_12_00.	CSV		
6144_2024_01_24_14_16_00.csv				
6144_2024_0	1_24_14_17_00.	csv		

- *CSVファイルは日付毎にフォルダが作成され保存されます。
- *アプロードが成功したファイルは削除されます。
- *CSV ファイルは最大7日間保存され、7日目の23時59分にフォルダ単位で削除されます。

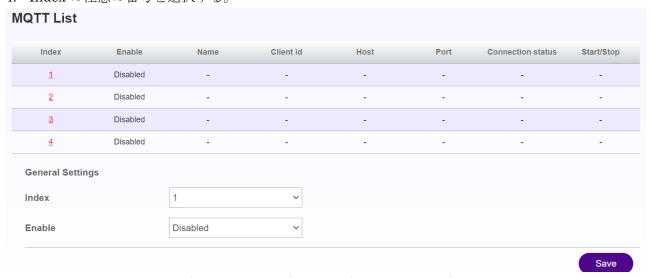
14. MQTT

本章では、MQTT 関連の手順を記載します。

- *AWS や Azure の SDK を使わずに MQTT を送信する機能
- *SDK を使う場合は Cloud Service 章を参照
- *自社クラウド等の利用。
- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2. メニューより[MQTT]を選択する。



- 3. Index の任意の番号を選択する。
 - *MQTT は同時に4つ同時に利用可能
- 4. Index の任意の番号を選択する。



-Enabled: Enabled(有効にする場合)/Disable(無効にする場合)

- 5. [OK]ボタンを押下する。
- 6. 以下入力を行う。

General Settings		
Index	1	~
Enable	Enabled	~
Name	test	
Client id	test	
Host	54.165.198.210	
Protocol	TCP	~
Encryption switch	Enabled	~
Port	1883	

-Name : 任意の名称 -Client id : 任意の ID

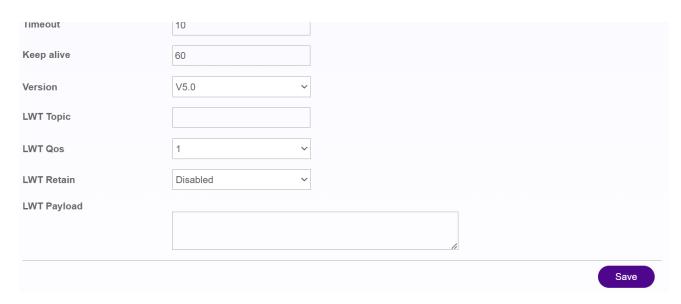
-Host:送信先ホストアドレス -Protocol:TCP/WSを選択

-Port: Port 番号を入力(MQTT:1883/MQTTS:8883)

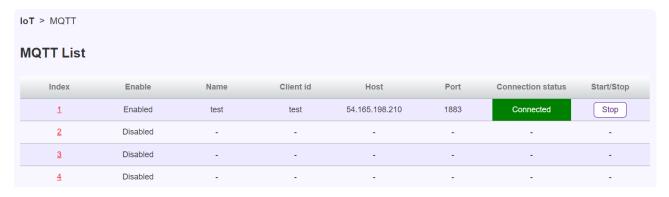
7. MQTTS をご利用の場合は TLS を Enabled に設定し証明書を選択する。

TLS	Enabled
CA File:	07ca60c8a490740dbade0dd604 Load Upload successful
Cert File:	AmazonRootCA1.pem Load Upload successful
Key File:	07ca60c8a490740dbade0dd604 Load Upload successful

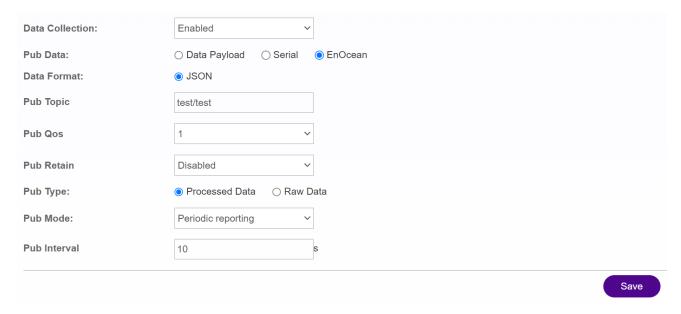
8. [Save]ボタンを押下する。



9. Connection status が"Connected"になっていることを確認。



10. 画面下部の設定を行う。



-Data Collection : Enabled/Disable

-Pub Data:

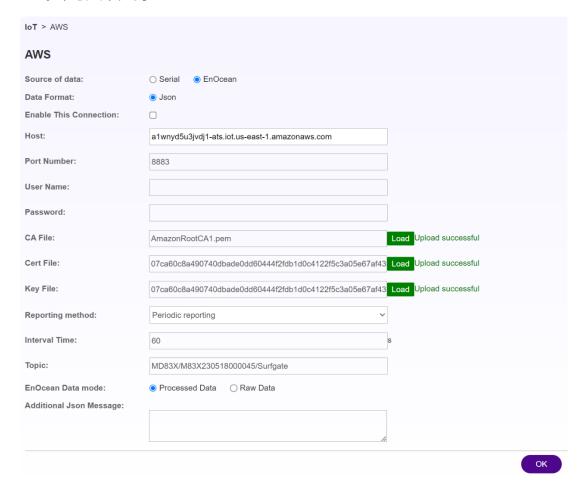
- · Data Payload:
- · Serial:
- EnOcean:
- -Data Format: JSON
- -Pub Topic:トピック名を入力
- -Pub QoS:メッセージ保証レベルを選択
- -Pub Retain: Retain 機能の Enabled(有効)/Disable(無効)を選択
- -Pub Type:
 - Processed Data: テレグラム解析済みデータ
 - ・Row Data:未解析テレグラムデータ
- -Pub Mode :
 - ・Periodic reporting:インターバル指定での定期通信
 - ・Real-time reporting: センサーの通知タイミングでのリアルタイム通信
- -Pub Interval: 送信間隔を入力(Periodic reporting を選択した場合のみ入力可)
- 11. [Save]ボタンを押下する。

15. Cloud Service

本章では、Cloud 関連の手順を記載します。

1. AWS に接続

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2. メニューより[AWS]を押下する。
- 3. 以下を入力する。



-Source of data: EnOcean/Serial より送信したデータを選択

-Data Format: Json 固定

-Enable This Connection: チェックを入れると AWS への接続を開始する。

-Host: AWS のエンドポイントを入力する。

-Port Number: 8883

-CA File: 証明書を選択し[Load]を押下

-Cert File: certificate ファイルを選択し[Load]を押下

-Key File: 秘密鍵ファイルを選択し[Load]を押下

- -Reporting method:以下より通信タイミングを選択
 - ・Periodic reporting:インターバル指定での定期通信
 - ・Real-time reporting: センサーの通知タイミングでのリアルタイム通信
- -Interval Time: 送信間隔を入力(Periodic reporting を選択した場合のみ入力可)
- -Topic: MQTT のトピック名を入力
- -EnOcean Data Mode :
 - Processed Data: テレグラム解析済みデータ
 - ・Row Data:未解析テレグラムデータ
- -Additional Json Message: JSON に付け加えたい文章がある場合に入力する。
 - *例) "reciever_type": "500J",
 - *JSON フォーマットに沿った入力をお願いします。
- 4.[OK]を押下する。

2. Azure に接続

- 1. WebUI にログインし、メインメニューより[IoT]を選択する。
- 2. メニューより[AWS]を押下する。
- 3. 以下を入力する。

IoT > Azure	
Azure	
Enable This Connection:	
Host Name	
Device ID	
Shared Access Key	
Reporting method:	Periodic reporting
Interval Time:	60 s
EnOcean Data mode:	Processed Data Raw Data
Additional Json Message:	
	ОК

-Enable This Connection: チェックを入れると Azure への接続を開始する。

-Host Name: Azure ホストネームを入力

-Device ID: Device ID を入力

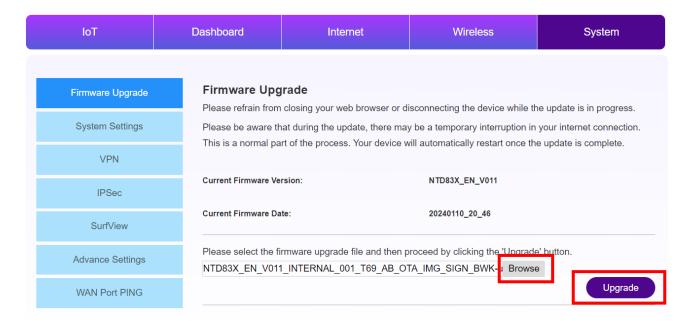
-Shared Access Key:アクセスキーを設定

- -Reporting method:以下より通信タイミングを選択
 - ・Periodic reporting:インターバル指定での定期通信
 - ・Real-time reporting: センサーの通知タイミングでのリアルタイム通信
- -Interval Time: 送信間隔を入力(Periodic reporting を選択した場合のみ入力可)
- -Topic: MQTT のトピック名を入力
- -EnOcean Data Mode :
 - Processed Data: テレグラム解析済みデータ
 - ・Row Data:未解析テレグラムデータ
- -Additional Json Message: JSON に付け加えたい文章がある場合に入力する。
 - *例) "receiver_type": "500J",
 - *JSON フォーマットに沿った入力をお願いします。
- 4.[OK]を押下する。

16. ソフトウェアアップデート

本章では、ソフトウェアアップデートの手順を記載します。

- 1.WebUI にログインし、メインメニューより[System]を選択する。
- 2.サイドメニューより[Firmware Upgrade]を選択する。
- 3.[Browse]を選択し、別途提供するアップデートファイル(~.bin)を選択する。
- 4.[Upgrade]を選択する。



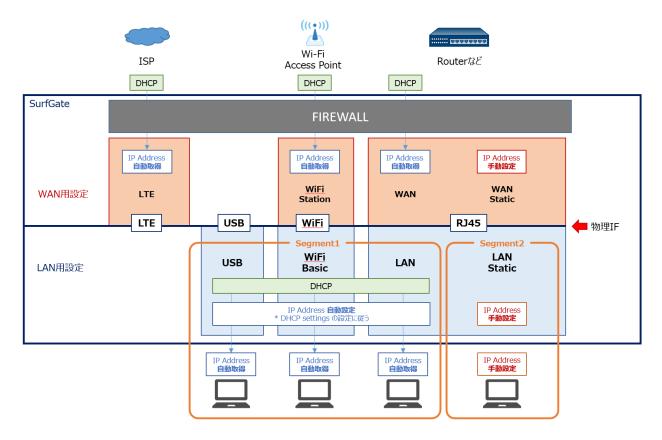
- 5.進捗バーのポップアップが表示され、進捗が100%になると本製品が再起動する。
- 6.アップデートが完了する。

※アップデート中は電源を抜いたりしないでください。故障の原因となります。

17. Network Interface

本章では、Network Interface を記載します。

インターフェイスの詳細



- ・各物理インターフェイスはいずれか1種類の役割で動作する。
- ・WAN はインバウンド通信に対して FW のポリシーが適用される。
- ・LAN(DHCP)、ワイヤレス LAN、USB は同じ論理インターフェイスで受け付ける。
- ・WAN のインターフェイスはデフォルトゲートウェイとして登録される。

18. 改訂履歴

本章では、改訂履歴を記載します。

マニュアル改訂記号は、表紙尾に記載されているカタログ番号の末尾に付記されます。

カタログ番号:NTD83X -User□

↑改訂記号

改訂記号	改訂年月	改訂ページ
A	2022年12月	初版
В	2023年1月	USB 記述修正、電源 OFF について追記
С	2023年3月	IoT 章を追記
D	2023年3月	Wireless 章を追記
E	2023年3月	AWS 章を修正
F	2023年3月	Modbus Address List のアドレスを修正
G	2023年4月	機器構成、製品仕様、TBD 項目の追加
Н	2023年6月	Modbus RTU、FTP/SFTP 項目の追加
I	2023年7月	Wi-fi STA 項目の追加
J	2023年9月	型番変更を反映
		WebUI 改善に伴い画像の差替え、手順の変更
		製品仕様章に Regulatory と Certification 項目を追加
		EnOcean 章に EEP を追加
		RS485/232 章の修正、Modbus Address List の削除、変更
		Cloud Service 章に Azure を追加
		MQTT 章の追加
		VPN 章の追加
K	2023年10月	System Log 章を追加
		製品仕様章 EnOcean を修正
L	2023年10月	EnOcean 章に対応 EEP を追加
M	2023年10月	MQTT 章に MQTTS を追加
N	2023年10月	VPN 章に IPSec を追加
О	2023年11月	Ethernet Management 章、Network Interface 章を追加
P	2024年1月	System Log 章を削除
		FTP/SFTP 章の加筆
		表紙、ご案内章の変更

Q	2024年4月	EnOcean 章の対応 EEP 一覧、対応 GP 一覧を更新

19. ご案内

本誌に記載のない条件や環境での使用、および人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別の合意がある場合を除き当社は当社商品に対して一切保証を致しません。

株式会社 SyncWave

製品に関するお問い合わせ先

メール: info@syncwave.jp / ホームページ: http://syncwave.jp/

カタログ番号: NTD83X -UserQ 2024年4月現在